

グリーンランド、新憲法の草案を間もなく提出する見通し

グリーンランド政府Naalakkersuisutは12日、憲法委員会が4月1日までにグリーンランドにとって史上初の憲法草案を提出する見込みであることを発表した。実現すればこの草案は、賛成派（グリーンランド人の確固たる多数派）が独立、デンマークからの分離、グリーンランドの主権国家の設立を議論する際にどのような国を想定しているのか、最初の実体的かつ協調的な示唆を与えることになる。記事参照：Greenland expects the first draft of a new constitution soon - ArcticToday (2023.1.28/Arctic Today)



Premier Kim Kielsen addresses the opening of the autumn 2017 session of Inatsisartut (Inatsisartut)

Wibax、野心的な環境目標で主導権を握る



週末、Pite Havsbadでモータースポーツの権威ある大会「Race of Champions」が開催された。このイベントには世界最高峰のモータースポーツドライバーが集まった。土曜日にはグリーンチャンピオンセミナーも開催され、世界有数のドライバーであるセバスチャン・ベッテルが、ノースボルト、H2グリーンスチール、SSAB、Wibaxといった企業の代表者とともに、より持続可能でスマートな社会を共に築くための方法について議論した。WibaxのグループCEOは、化学サプライヤーの野心的な新しい環境目標を明らかにするために出席した。2030年以降、同社が保有する車両の100パーセントを電気自動車で構成し、全車両の100パーセントを自家発電で賄うという。

記事参照：Wibax takes the lead with ambitious environmental goals - ArcticToday (2023.1.31/Arctic Business Journal)

プーチン大統領、北極海海底の巨大な塊に対するロシアの主張について語る

プーチン大統領は金曜日、北極海にある大陸棚の外縁を合法的に拡大するロシアの取り組みの状況について、安全保障当局のトップと会談した。ロシアは2021年に国連に、未開発の膨大な石油とガスの貯蔵庫があるとされる大陸棚の再定義を求める申請書を提出した。モスクワは当時、北極圏の海底をもっと多く確保したいと述べており、この動きは、独自の主張を持つカナダとデンマークにも影響を与えるもの。大陸棚とは、国際法上、ある国の海岸線に接する浅い海域で、その国の領土の延長とみなされ、その国の天然資源を開発することができる領域と定義されている。

記事参照：Putin discusses Russia's claim to giant chunk of Arctic Ocean seabed - ArcticToday (2023.1.30/Arctic Today)



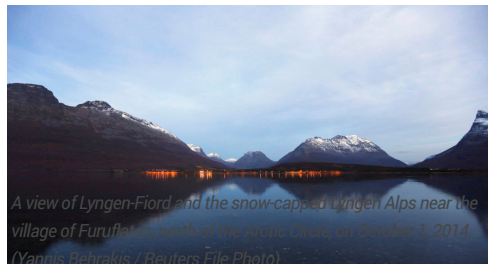
Russian President Vladimir Putin chairs a meeting with members of the Security Council via a video link at the Novo-Ogaryovo state residence outside Moscow, Russia, on January 27, 2023. (Mikhail Klimentyev / Sputnik / Kremlin via Reuters)

ノルウェー、海底に「相当な」鉱物資源を発見

ノルウェー当局が発表した初の公式推定によると、ノルウェーの調査により、延長された大陸棚の海底に銅からレアアースまで、「相当量の」金属や鉱物があることが判明した。石油とガスの主要輸出国である北欧の国は、深海採掘のために沖合地域を開放するかどうかを検討している。このプロセスには議会の承認が必要で、環境問題への懸念が高まっている。調査を行ったノルウェー石油総局

(NPD)は、「調査地域の海底で見つかった金属のうち、マグネシウム、ニオブ、コバルト、レアアースは、欧州委員会の重要鉱物リストに含まれている」と声明で述べている。ノルウェー海とグリーンランド海の遠隔地を対象とした資源量推定では、多金属硫化物に蓄積された銅は3800万トン、亜鉛は4500万トンと、世界全体の年間採掘量のほぼ2倍に相当する量があることがわかった。

記事参照：Norway finds 'substantial' mineral resources on its seabed - ArcticToday (2023.1.31/Arctic Today)



A view of Lyngen-Fjord and the snow-capped Lyngen Alps near the village of Furufjellet, north of the Arctic Circle, on October 1, 2014. (Yannik Rottmeyer / Reuters File Photo)

アラスカでの気候変動対策技術導入の機会を拡大するアクセラレータープログラム



アラスカのコミュニティが気候変動の影響に直面する中、米海軍の支援を受けた地元のテクノロジー・アクセラレーター・プログラムは、流れを変えるための新しいソリューションの導入に向けた準備を進めている。Launch Alaska社のTech Deployment Trackプログラムは、アラスカで気候変動に焦点を当てた脱炭素関連技術を展開しようとする、アラスカおよび世界中の中・後期段階の新興企業を求めている。

記事参照：Accelerator Program Expands Opportunities for Climate Tech Deployment in Alaska - ArcticToday (2023.1.30/Arctic Business Journal)

船舶のエンジンから排出される温室効果ガス等の削減：現在のトレンドと将来の選択肢



フィンランド、米国、ギリシャ、カナダ、日本の研究者による包括的な文献レビューとディスカッションにより、(ほぼ)ゼロエミッションを達成するための検討が行われた。カーボンニュートラル燃料の生産能力と価格が改善すれば、クリーンなエンジンや効率的な排気後処理技術と組み合わせ、海運が気候、健康、環境に与える悪影響を低減できる可能性がある。

記事参照：Reducing greenhouse gas and other emissions from ship engines: Current trends and future options - ArcticToday (2023.1.31/Arctic Business Journal)



北極域は、気候変動の影響により大きな変化に直面しています。その変化は、自然環境のみならず、政治経済、社会、北極先住民及び住民の生活や暮らしにも及び、それらが複合的に絡み合った形で相互作用しています。こうした変化への適応、適応能力やレジリエンスの育成のプロセスは、複雑で予測困難な社会的課題であると同時に、現地住民のwell-beingを獲得するための機会となっています。

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標 (SDGs)』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。今回のVol.22は、主に2023年1月後半のニュースを掲載しています。



発行元：ArCS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局
 監 修：大西富士夫 (北海道大学北極域研究センター)
 E-mail: tdcop@arc.hokudai.ac.jp
 WEBサイト: <https://tdcop.arc.hokudai.ac.jp/>

